

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果公表①のポイント

令和8年7月

文部科学省・国立教育政策研究所



1 令和8年度全国学力・学習状況調査の概要

調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

全国的な児童生徒の学力や
学習状況を把握・分析し、
教育施策の成果と課題を検証し、
その改善を図る

学校における児童生徒への
学習指導の充実や
学習状況の改善等に
役立てる



そのような取組を通じて、
教育に関する継続的な
検証改善サイクルを
確立する



調査概要

調査実施日	令和8年4月20日(月)～5月29日(金)
調査対象	小学校6年生、中学校3年生
調査事項	①児童生徒：教科調査〔国語、算数・数学、 英語（中学校のみ） 〕 / 質問調査 ②学 校：質問調査 ※令和5年度以来の実施
調査問題	・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信
今年度の調査の特徴	・中学校・英語（4技能（聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと））の 全面CBT（Computer Based Testing）化 ※「話すこと」調査のみ令和5年度もCBTで実施 ・小学校・児童質問でのランダム方式の導入

2 令和8年度全国学力・学習状況調査の結果公表スケジュール

7月16日（木）	結果公表①（正答率・IRTバンド分布などの全国平均） 学校向け帳票、個人票の提供
7月27日（月）	教育委員会向け帳票の提供
8月3日（月）	結果公表②（全国データに基づく分析結果）
9月以降（秋頃目途）	結果公表③（都道府県・指定都市別データに基づく分析結果）

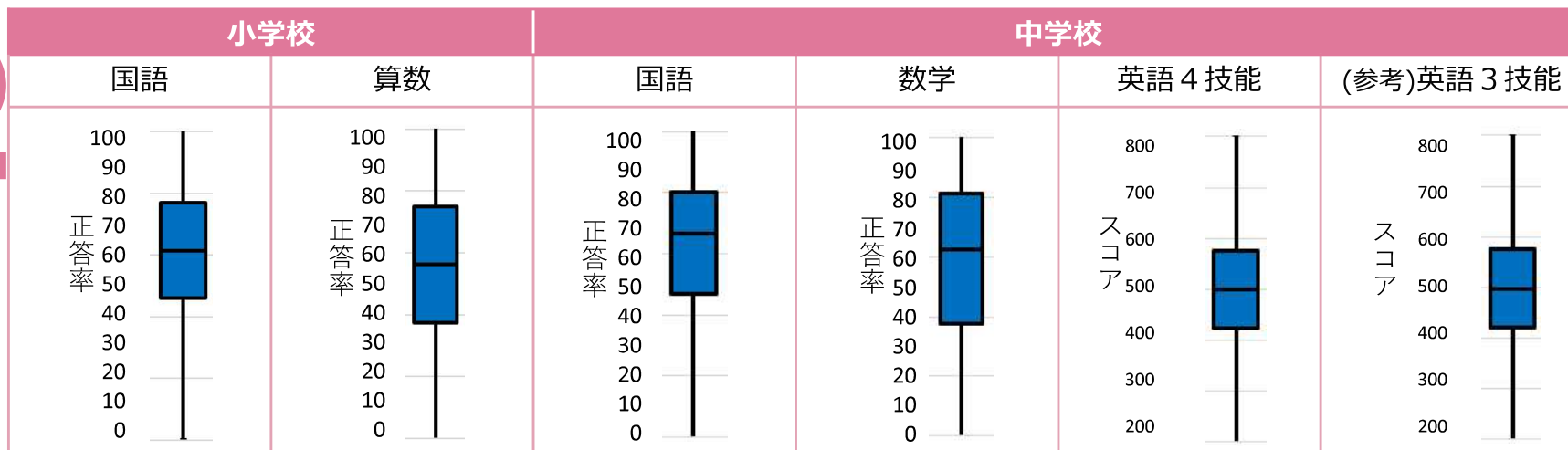
※ 中学校英語は、IRT（項目反応理論）に基づき、500を基準に算出したIRTスコアで結果を表示。IRTスコアは、「聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと」の4技能を統合したもので、「話すこと」の当日実施校（46,645人分）のデータに基づいて全国値を算出。各学校には、「聞くこと・読むこと・書くこと」（876,529人分）の3技能を統合したIRTスコアを返却。

全国（国公私）の
平均正答数（率）・
平均IRTスコア

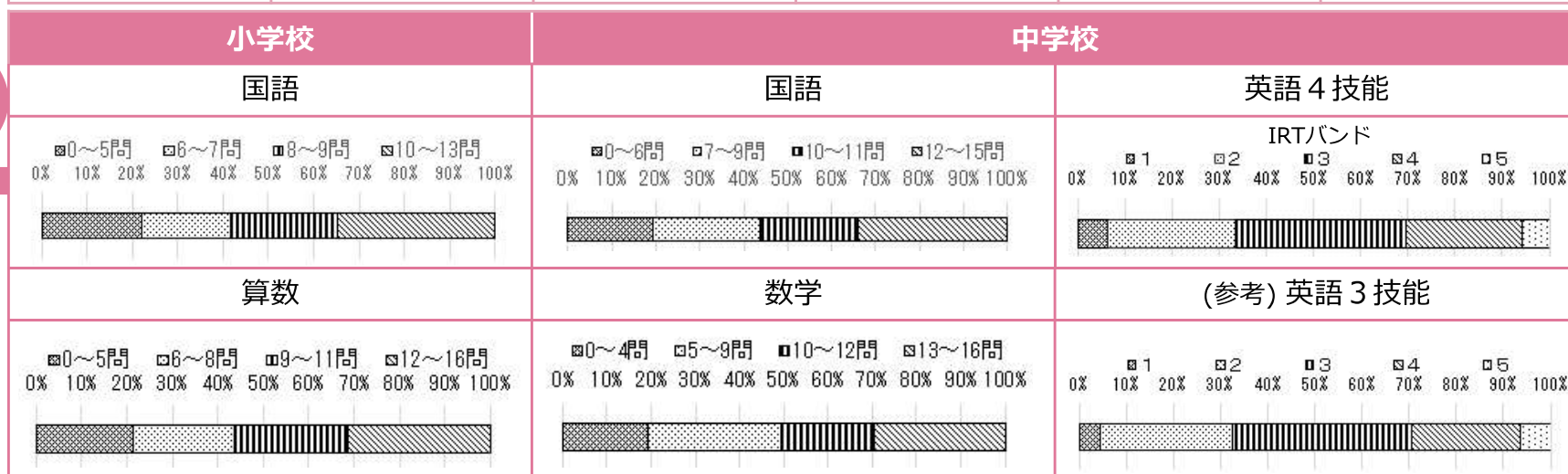
小学校		中学校			
国語	算数	国語	数学	英語4技能	(参考)英語3技能
7.9/13 問 (61.1%)	9.1/16 問 (56.6%)	9.6/15 問 (64.2%)	9.2/16 問 (57.4%)	499	502

※ 各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計とはしておらず、年度によって出題内容も異なることから、**過年度の結果と単純に比較することは適当ではない**ことに留意が必要。

全国の正答率・
IRTスコアの分布



正答数・IRTバンド
ごとの層分布



※ 本調査におけるIRTバンド（中学校英語）は、理想的な正規分布となった場合、バンド3が約40%、バンド2及びバンド4が約23%、バンド1及びバンド5が約7%となるように設定したもののだが、実際の各生徒のスコア状況により各バンドの割合は変動する。

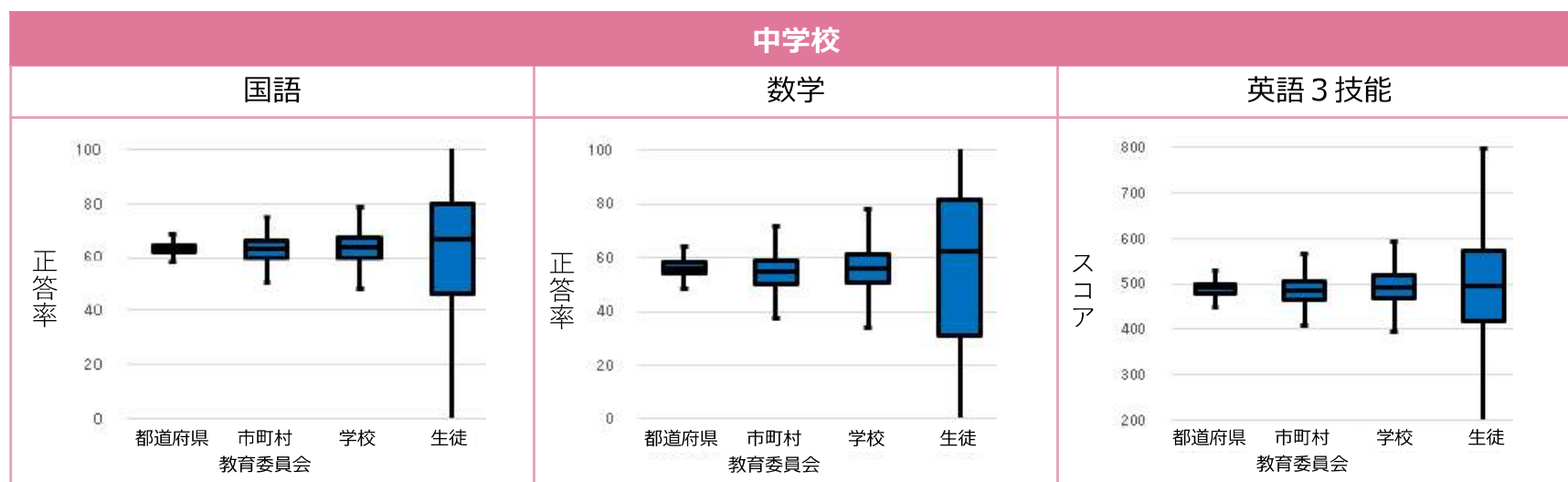
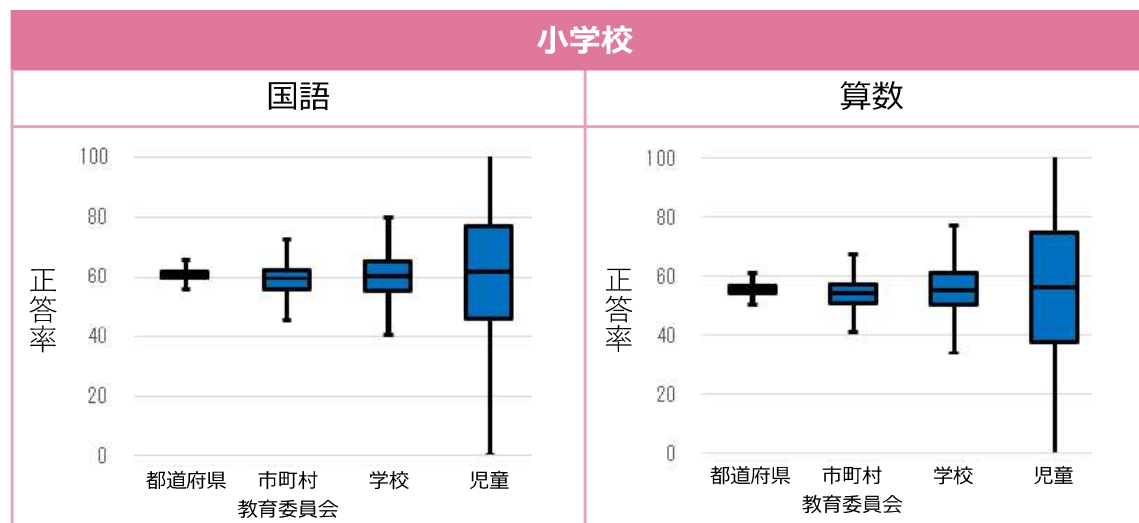
中学校英語 IRTバンド	1	2	3	4	5
4技能スコア換算	~341	342~448	449~556	557~663	664~
3技能スコア換算	~329	330~443	444~558	559~673	674~

様々な集計単位で見る
正答率・IRTスコアの
ばらつき

- ・各集計単位の平均正答率・スコアのばらつきは過年度と比べて大きな変化は見られない。
- ・都道府県別の平均正答率・スコアについては、ばらつきの状況は狭い範囲に収まっている。

※都道府県・指定都市別
データに基づく分析結果
は、令和8年9月以降に
公表予定。

※英語「話すこと」は当日
実施校の結果を全国値と
しているため、英語の集
計単位毎の結果は3技能
で表示。



箱ひげ図



- 第3四分位数から、第1四分位数～第3四分位数の1.5倍の長さの中での最大値
- 第3四分位数（75パーセンタイル）
- 中央値（第2四分位数（50パーセンタイル））
- 第1四分位数（25パーセンタイル）
- 第1四分位数から、第1四分位数～第3四分位数の1.5倍の長さの中での最小値

パーセンタイル

計測値の統計的分布の上で、
小さい方から数えて何%目の値は、
どれくらいかという見方をする統計
的表示法